第２０回 BBL 開催報告要旨

2007 年 5 月 24 日

開　催　日　時　：２００７年５月２３日（水）　１２：００～１３：００
ゲストスピーカー：風間直樹氏（「週刊東洋経済」記者）
モデレーター　　：小田正規（公共政策プラットフォーム）
開　催　場　所　：参議院議員会館第５会議室

・ 有名なシャープの亀山工場の従業員のうち、地元出身者は３～４割に留まる。
・ その工場で働いていた森川さん（仮名）は、シャープの元請けの下請けの下請け、つまり３次下請けの会社の請負労働者だった。
・ ある日、転落事故に遭い骨折した。請負会社は「骨折やけどは労災にならない」とウソを言った。ウソだとばれると、シャープに気を遣って報告もしなかった。シャープは表向き３次請負を認めてなかったからだ。森川さんは、「労災飛ばし」にあったのだった。

・ トヨタ自動車の部品会社であるジェコー（埼玉県行田市）で働く安田さん（仮名）は、夜勤専属で、寮の合部屋にはカギがかからず、すべて貴重品は持ち歩いていた。エアコンが効かない、それでもつけないわけにはいかないが、エアコンと電子レンジとを併用すればブレーカーが落ちるような、劣悪な住環境におかれていた。
・ それで日給は 6,500 円程度、部屋賃やテレビのレンタル料を差し引かれると月の手取りは８万円ぐらいにしかならなかった。
・ メーカーが生産調整すると、派遣元から辞めるか続けるか問い詰められた。働く環境が悪くても、辞めて生活できるだけの蓄えはなかった。貯金をしなかったのではなく、ボーナスも退職金もないからできなかったのだ。

・ こうした実態は、取材を始めた５年前からほとんどかわっていない。
・ どうすれば状況は改善するか。間接雇用をやめて直接雇用に移せないものか。
・ 企業とすれば、間接雇用は解雇しやすく、コストも低いのでこれをやめると国際競争力がなくなる、といっている。はたして、それは本当だろうか。

・ 政府や議員、各種会議の政府委員たちは派遣や請負で働く人たちを自分の責任においてそういう生き方を選んでいる、そうした体質であるということを

いわんとしている。自己責任であると。

- しかし、請負や派遣で働いている若い人たちの中には、就職氷河期で就職したくてもできなかった人たちも多く含まれている。望んでいないのに今の環境になってしまった人たちが多くいるのだ。
- これからの働き方をどう改革していくのか、規制改革会議が 5 月 21 日に『脱格差と活力をもたらす労働市場へ～労働法制の抜本的見直しを～』と題するペーパーを好評したが、そうした彼らの考え方、現状の捉え方では何の解決にもならない。相変わらずの低賃金で過酷な業務を強いられる。拙速な施策では将来が恐ろしい。しかし、今よりもさらに悪くなるだろう。

※ この BBL 開催報告要旨は、公共政策プラットフォーム事務局が作成したものです。